

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	21220005	研究期間	平成21年度～平成25年度
研究課題名	向社会行動の神経基盤と発達過程の解明	研究代表者 (所属・職) (平成26年3月現在)	定藤 規弘（生理学研究所・大脳皮質機能研究系・教授）

【平成24年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、共感と心の理論の共存的発達が向社会行動の誘因であるという仮説の検証に向けて、主として要素過程の神経基盤の解明が着実に進展している。各機能に関する脳科学的研究は十分進展しており高く評価できる。研究組織間の有機的な相互作用を通じて、初期の目的を越える成果も挙がっている。しかし、研究目的の達成に重要な小児の行動と脳活動に関する縦断的な研究に関しては進捗状況ははっきりしない面もある。今後は、研究代表者がリーダーシップを発揮し、統合的なモデルとしての集大成がなされることを期待する。

【平成26年度 検証結果】

検証結果	<p>本研究の主要な成果は、2 個体間 fMRI 同時計測を含む機能的 MRI により、発達過程で出現する社会能力の要素過程の神経基盤を明らかにしたことである。研究組織間の有機的な共同研究による成果が上がっている。研究進捗評価時に指摘された小児の行動と脳活動に関する縦断的な研究に関しても、小児の皮肉理解に、内側前頭前野が関与することを明らかにしている。さらに、ASD の社会性向上のために、オキシトシン継続投与による臨床的治療アプローチも開始されており、今後これらの神経基盤的解明が期待され、研究進捗評価結果で見込まれたとおりの研究成果が達成されたと言える。</p>
A	